

こして、なにか仕事をした気になっているわ。前みたいに暇だから本を読んでいるという人はさすがにいないけど。パソコンというのはいいアライバイだね。仕事しているのか、検索という名目の読書をしているのかわからない。

若い人によく言うんです。職員研修や公務員研修で言うのは、自分が与えられるワンランク上で仕事をしろと。平は係長のつもりで仕事しろ、係長になったら補佐のつもりで汗かかなきゃダメだし、補佐は課長になったつもりでやらなきゃならないし、課長にもなったら町長のつもりで、新しい政策はどんどん自分で作って、町長口説いて実現しろと。そういうバイタリティを持たない限り、住民の側に立ったまちづくり型公務員というのは生まれてこないというのが私の結論なんですよ。

しかし民間でなにかやるのと、行政を動かして予算をとって、なにかやるのとではかかる時間が全然違う。町並み保存でも、一〇年一五年は目処めどがつくまで時間がかかる。だから僕は三〇歳代の職員に、「いま始めないと定年までに目処めどがつかんぞ」とおどかしている。五〇歳になつてからなにか始めようとしても遅い。気力体力があつて、飛び回れるうちにしとかなと。それと後継者を育てるということは大事だなあ。

足助の小沢さんのところは、部下の矢沢氏が町長選に出て、町長になって町並み保存の路線を引き継いだ。首長を誰がやるかということとはとても大切なのに、内子ではなかなかそれが果